

---

西方遺跡第28次確認調査報告

下寺尾字西方587番1 地点

---

2026

茅ヶ崎市教育委員会社会教育課文化財保護担当

## 調査報告

1. 調査地点 下寺尾字西方 587 番 1
2. 調査担当 田中万智・高橋桃子・幾田遼（社会教育課）
3. 調査補助 株式会社カナコー
4. 立会者 地権者 1 名
5. 調査年月日 令和 7 年 11 月 10 日（月）～11 月 28 日（金）
6. 調査目的 駐車場新設工事に伴う埋蔵文化財試掘・確認調査
7. 調査面積 26.1 m<sup>2</sup>
8. 遺跡名称 西方遺跡（県・市遺跡 No. 1）
9. 遺跡種別 集落跡、官衙跡
10. 遺跡の時代 縄文時代（早・前・中期）、弥生時代（中期）、古墳時代（後期）、奈良時代、平安時代、中世、近世

### 11. 調査地の立地

本遺跡は市内北部の下寺尾地区に位置し、台地上に立地する。下寺尾官衙遺跡群に隣接し、北側隣接道路部分で実施された公共下水道布設工事に伴う発掘調査では、古代に属する大型の溝状遺構が確認されている。調査地点の現況は畑地であり、標高は約 14m を測る。

### 12. 調査方法

事業計画地の全域を駐車場に転用するため、表層土を砕石に置き換える工事計画が立てられた。その為、範囲内に 7.7m×1.0m の調査区を 1 箇所、6.7m×1.0m の調査区を 1 箇所、8.8m×1.0m の調査区を 1 箇所設定し、調査を実施した。なお、8.8m×1.0m の調査区は部分的に 2.9m×1.0m を拡張した。掘削はすべて人力を使用した。遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図および土層堆積図の作成と写真記録作成とした。また、調査区の位置及び標高については光波測量を行い事業計画図に落とし込んだ。

### 13. 土層堆積状況

#### 【I～III区共通】

#### I-a層：暗褐色土

しまりなし。粘性弱い。宝永パミス・スコリアを全体に含む。現在の耕作土。

#### I-b層：灰褐色土

しまり粘性なし。色調明るい。宝永パミス・スコリアを全体に多く含む。近代の耕作土。ビニールゴミ、針金等混じる。

#### I-c層：灰褐色土

しまり強い。粘性なし。土粒細かい。宝永パミス・スコリアを少量含む。近世の耕作土。部分的に転圧を受けて硬化する。

#### II層：暗褐色土

しまりあり。粘性ややあり。10mm 程の黒色スコリアを全体に含む。橙色スコリアを全体に少量含む。堆積やや密。古代～中世の遺物を含む。

#### III層：暗褐色土

しまり強い。粘性ややあり。5mm 程の黄色スコリアを霜降り状に全体に多く含む。堆

積密。西方遺跡第25次調査の第Ⅲ層に類似する。

#### 【Ⅰ区 硬化面】

あ層 : 暗褐色土

しまり極めて強く著しく硬化する。粘性あり。橙色スコリアを多く含み、黒色スコリア・黄色スコリアを含む。凹みに宝永火山灰が純粋に堆積する。中世～近世前半にかけての道状遺構か。

#### 【Ⅲ区 1号溝状遺構】

①層 : 暗褐色土

しまりあり。粘性ややあり。橙色スコリアを中量含む。大粒の黒色スコリアを少量含む。土粒やや粗い。土師器・須恵器出土。

②層 : 黒褐色土

しまり弱い。粘性ややあり。大粒の黒色スコリアを多量に含む。堆積粗い。橙色スコリアを少量含む。

③層 : 暗褐色土

しまり強い。粘性あり。色調やや明るい。橙色スコリアを中量含む。黒色スコリア減る。土粒細かい。

④層 : 暗褐色土

しまり粘性強い。橙色スコリアを少量含む。FBを含み、べたつく。黒色スコリアを極少量含む。

⑤層 : 暗黄褐色土

しまり弱い。粘性強い。ロームブロック主体。

#### 14. 発見遺構・出土遺物

発見遺構：竪穴状遺構1基（弥生時代～古代）、硬化面（中世～近世前半：道状遺構か）、溝状遺構1条（古代：ピット3穴を伴う）、土坑1基（古代）

出土遺物：弥生土器、土師器（古墳～平安時代）、須恵器（古墳～平安時代）、陶器（近世）、磁器（近世）

#### 15. 調査所見

調査の結果、いずれの調査区も古代の包含層及び遺構が良好に残存している様子が確認された。堆積土の厚みは薄く、古代の溝状遺構の検出面は地表下0.6m付近であった。また、苺栽培に伴う深いピット状の掘り込みや近代とみられる芋穴状の深い土坑群が確認された。現道に近いⅠ・Ⅱ区では複数重層する近世～近代を主体とする硬化面が確認されており、道状遺構の可能性が指摘できる。なお、Ⅱ区で確認された硬化面は凹み部分に宝永火山灰の純粋な堆積がみられたことから、近世前半以前にさかのぼる可能性がある。

西方A遺跡第2次調査(1991)と西方A遺跡第6次調査・西方C遺跡第2次調査(2006)で確認された古代の官衙に関連すると推測される大規模な溝状遺構の延長部分をⅠ区及びⅢ区で確認した。Ⅲ区で遺構の一部分を掘削したところ関東ローム層を掘り込み、断面形状は緩いV字形を呈する様子が確認された。遺構の残存規模は深さ1.2m、幅は2.8m

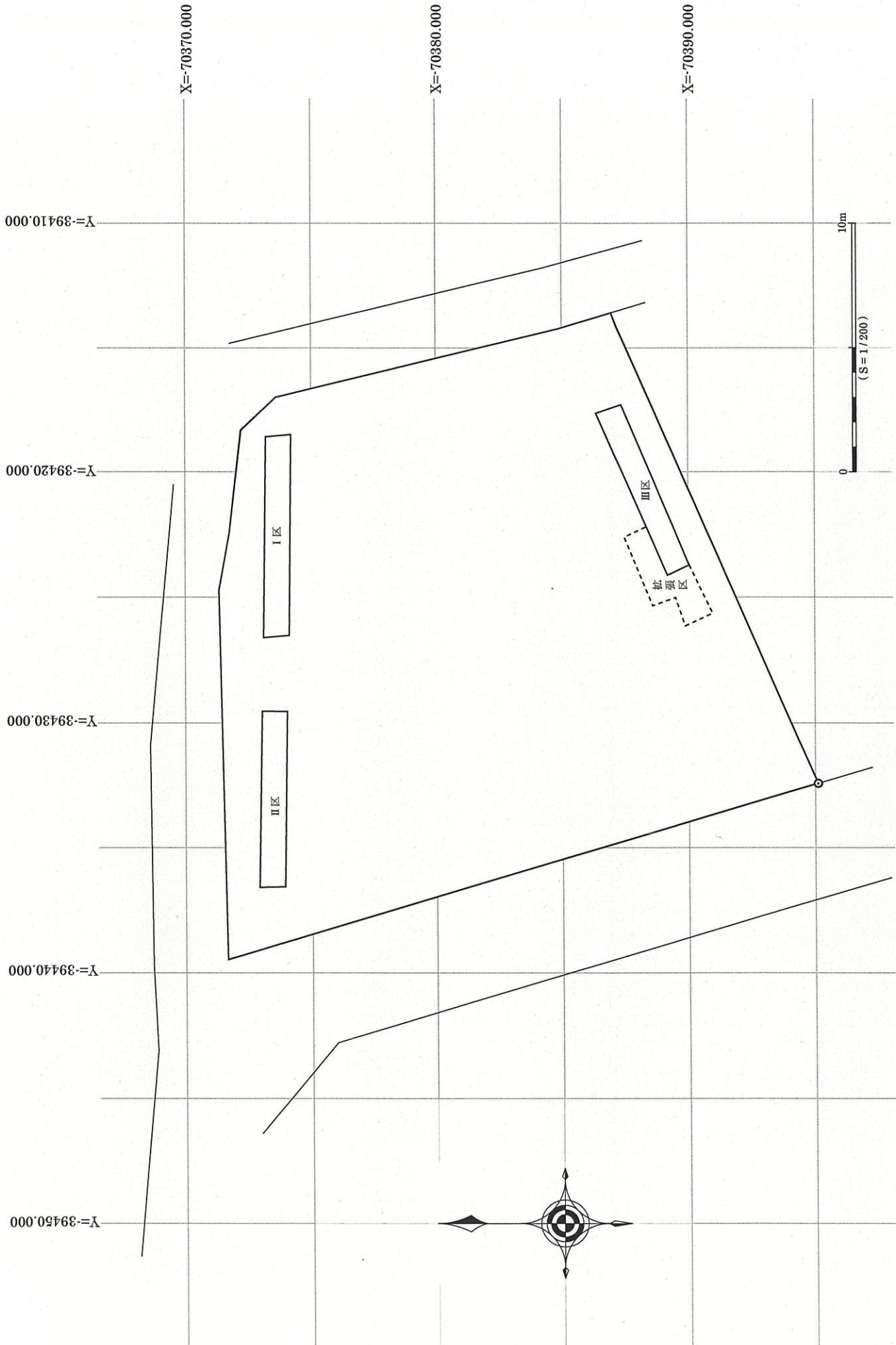
以上を測り、東側の立ち上がりは調査区外である。遺構の底面には一段深くなる⑤層の堆積する掘り込みが確認できることから、西方A遺跡第2次調査で確認された溝状遺構の中央部分と同様の形状であると仮定すると、溝状遺構の全幅は5.2m近くに達するものと推測される。延長軸はやや西に振る南北方向であり、これまでの調査で確認されている溝状遺構と延長方向が一致する。史跡下寺尾官衙遺跡群にとって極めて重要な情報を得ることができた。

## 16. 工事計画と取扱い

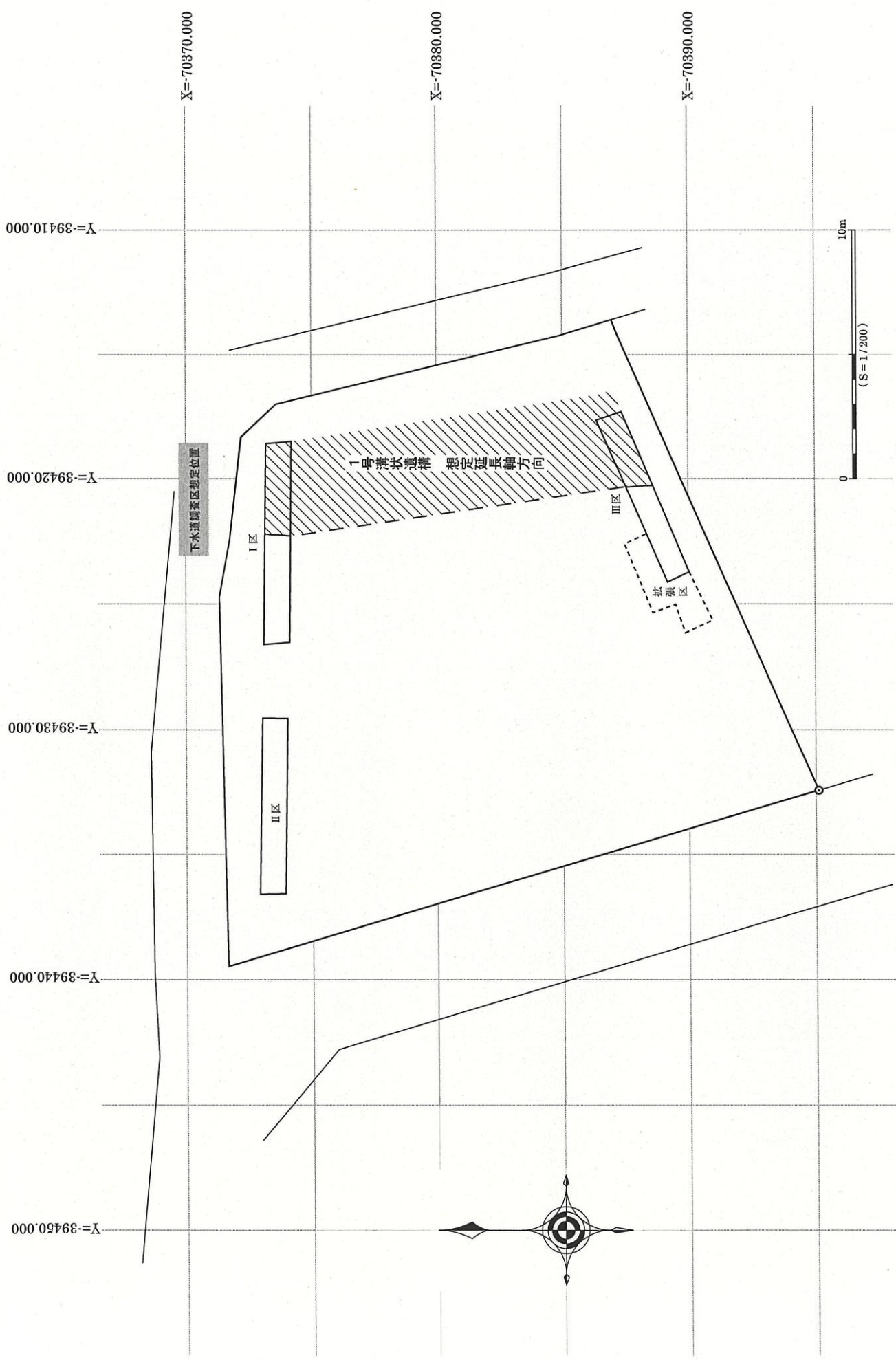
工事計画は現況畑として使用している土地を駐車場として使用するために、部分的に土を砕石に置き換える改良工事である。改良工事は土地の縁辺部に対し、最大深度0.2mで幅2.0mの範囲を予定しており、中央部分は盛土にて勾配をつけるものである。

調査の結果、I区の中世～近世前半にかけての道状遺構と推測される硬化面が最も浅く、地表下0.3～0.4mに存在していることが確認された。したがって、予定される工事計画は現代の耕作土範囲内で収まるといえる。なお、I区及びIII区で古代の官衙に関連すると推測される溝状遺構が確認されていることから、遺構への影響がないことを確認するため工事に際しては立会いを実施することで調整している。





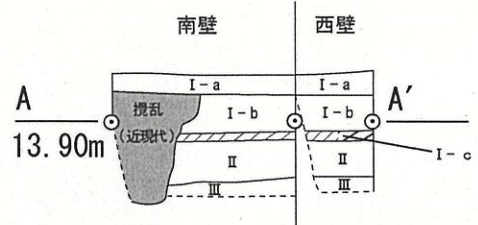
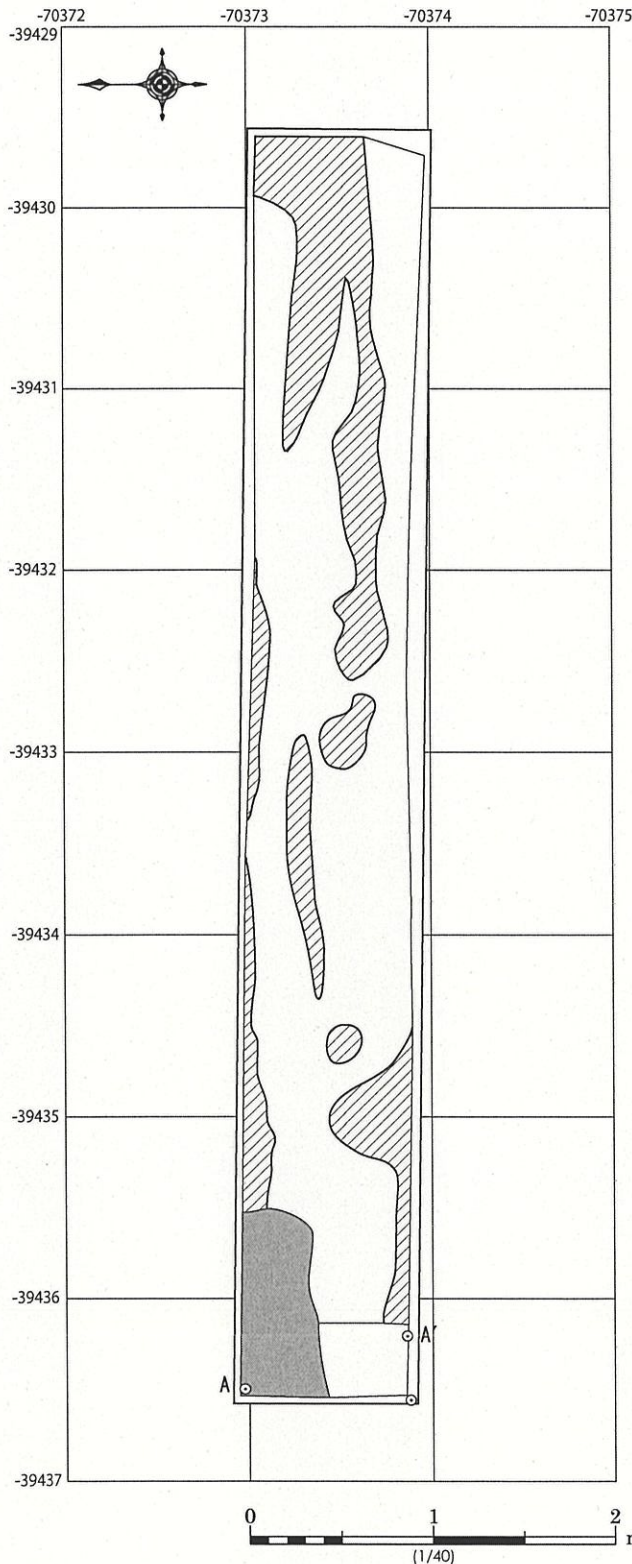
調査区配置図 (1/200)



調査区配置図 (1/200)



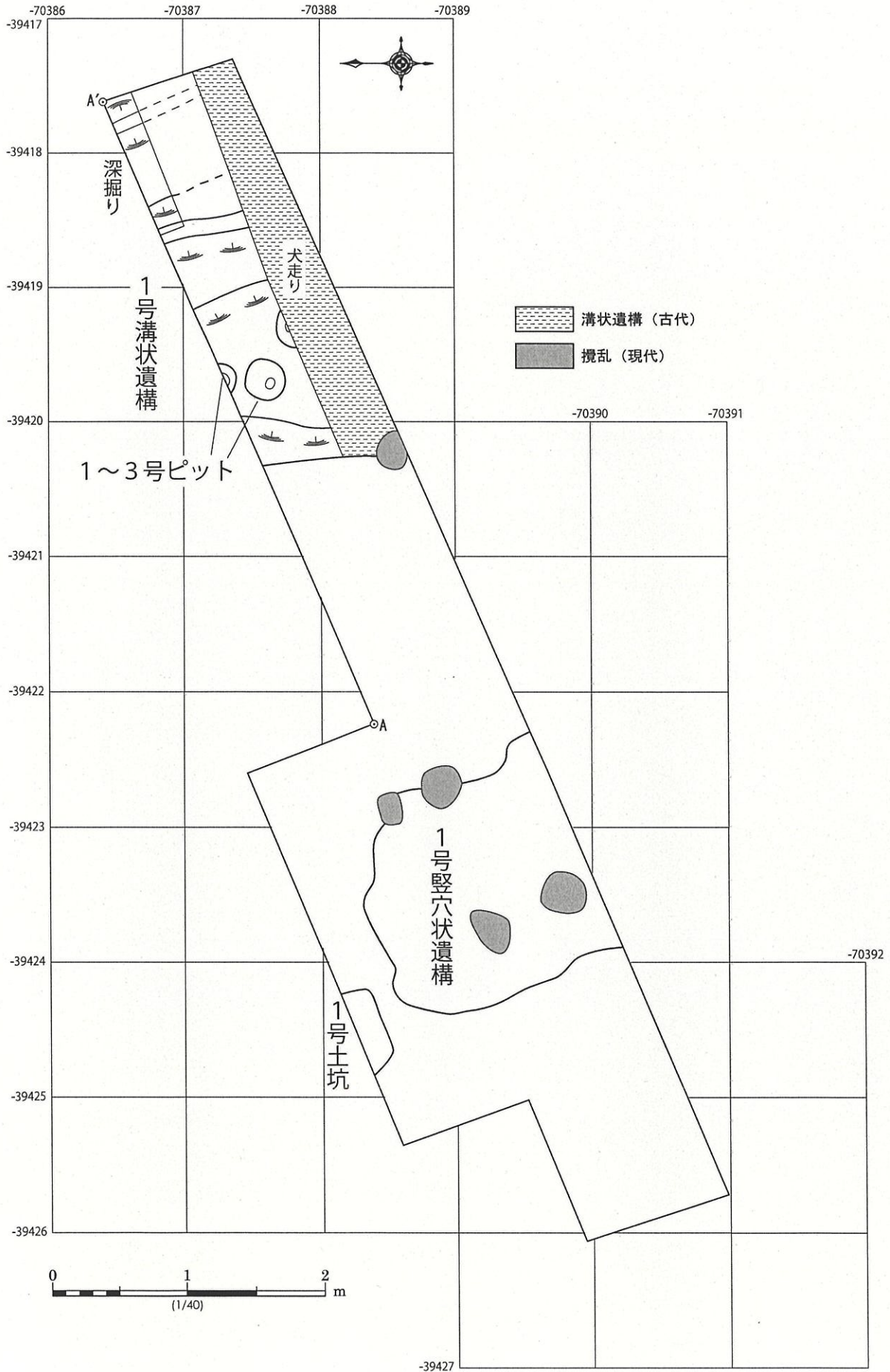
# 西方遺跡 第28次確認調査 II区



- I-a層：暗褐色土  
しまりなし。粘性弱い。宝永パミス・スコリアを全体に含む。現在の耕作土。
- I-b層：灰褐色土  
しまり粘性なし。色調明るい。宝永パミス・スコリアを全体に多く含む。近代の耕作土。
- I-c層：灰褐色土  
しまり強い。粘性なし。土粒細かい。宝永パミス・スコリアを少量含む。近世の耕作土。部分的に硬化する。
- II層：暗褐色土  
しまりあり。粘性ややあり。10mm程の黒色スコリアを全体に含む。橙色スコリアを全体に少量含む。堆積やや密。古代～中世の遺物を含む。
- III層：暗褐色土  
しまり強い。粘性ややあり。5mm程の黄色スコリアを霜降り状に全体に多く含む。堆積密。西方遺跡第25次調査の第III層に類似する。

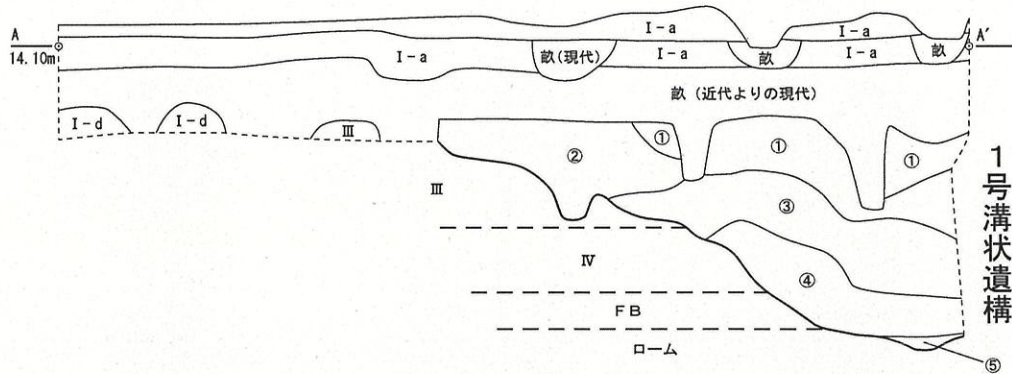
- 宝永火山灰
- 攪乱 (近現代)

西方遺跡 第28次確認調査 III区



西方遺跡 第28次確認調査 III区

北壁



【1号溝状遺構】

①層：暗褐色土

しまりあり。粘性ややあり。橙色スコリアを中量含む。大粒の黒色スコリアを少量含む。土粒やや粗い。土師器・須恵器出土。

②層：黒褐色土

しまり弱い。粘性ややあり。大粒の黒色スコリアを多量に含む。堆積粗い。橙色スコリアを少量含む。

③層：暗褐色土

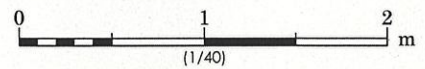
しまり強い。粘性あり。色調やや明るい。橙色スコリアを中量含む。黒色スコリア減る。土粒細かい。

④層：暗褐色土

しまり粘性強い。橙色スコリアを少量含む。FBを含み、べたつく。黒色スコリアを極少量含む。

⑤層：暗黄褐色土

しまり弱い。粘性強い。ロームブロック主体。





1. 近景（北から）



2. I区遺構検出状況（南西から）



3. I区硬化面範囲確認状況（南東から）



4. II区遺構検出状況（北東から）



5. II区西壁土層堆積状況（東から）



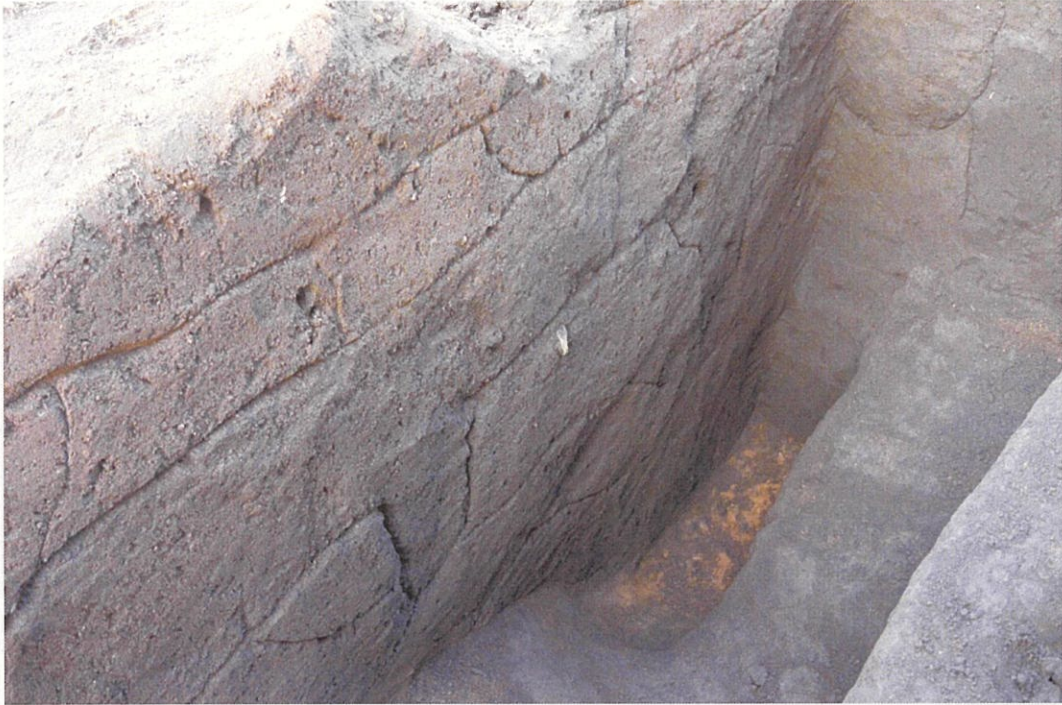
6. III区遺構検出状況（南西から）



7. Ⅲ区1号溝状遺構 高坏出土状況（南西から）



8. Ⅲ区1号溝状遺構完掘状況（南から）



9. Ⅲ区1号溝状遺構北壁土層堆積状況（南から）



10. 空撮（左が北）